

# 研究テーマ いじめ・暴力予防とプログラム開発のための研究 - 各種課題における調査研究と「いじめ解決大作戦BIG」の効果検証 -

B-1 教育相談

「いじめ防止対策推進法」等、法律の中に示されている実践にむけた内容を整理しています。 p.2

平成26年度の山梨県内の中学校において、いじめを予防するためにどんな取組をしたか、概況がわかります。 p.3

問題と解決を考える時に、いじめ・暴力を「病氣」に喩えて考えるとわかりやすいことを述べています。 p.8

いじめ・暴力問題の課題解決に向けて  
情報発信を目的とした調査研究 pp.10-23

- 1 保護者の視点からのいじめ問題
- 2 山梨県内のいじめ解決事例
- 3 いじめと自殺
- 4 ネット社会におけるいじめやトラブルの問題と取組

プログラム開発に向けた実践研究 pp.24-29

- 1 いじめ解決大作戦BIG  
: Bullying Imagination Game

上記の5つの内容を紹介しています。



学校で、いじめ・暴力予防教育が積極的に取り組まれますように！ 役立つヒントがここにあります！



## 第三章 調査研究の内容と成果です！

### 1 保護者の視点からのいじめ問題

語られた内容を144の文節に切り取り、内容ごとに分類したものがこのグラフです。

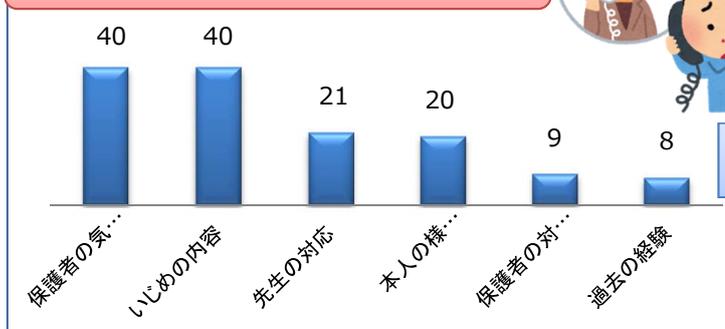
いじめ・不登校ホットラインの逐語記録から、いじめを主訴とする相談12件を対象に、質的分析を試みました！

年度始めは特にいじめが起りやすい

保護者もまたいじめの被害者である

解決しても長期的に見ていくこと

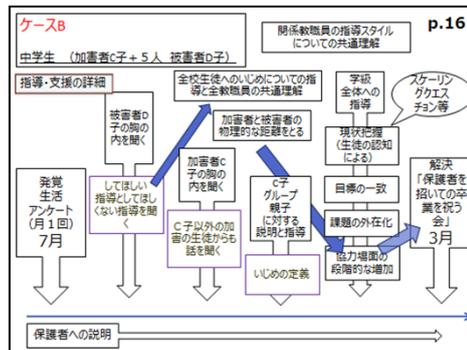
分析結果から、教員の注意すべき対応のポイントを提示しています！ぜひ本文をお読みください！



### 2 山梨県内のいじめ解決事例

問題解決のヒントは解決事例の中にある！

▶ 教職員版いじめ解決事例集を作りたい！



#### ケースの概要

- いじめの状況や被害者、加害者の特徴など大づかみでケースを捉えられる

#### ケースの流れ

- 基本的な流れと、具体的な指導の内容が分かる

#### 指導のスタイル

- なぜそのような指導を行ったのか、指導者の思いが分かる

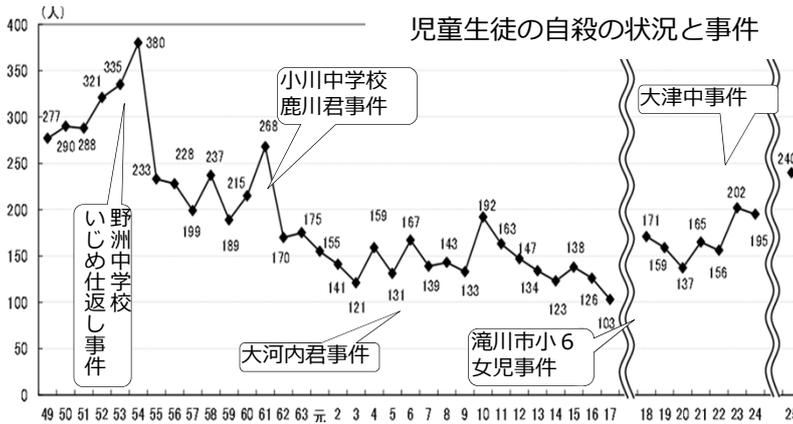
#### ケースの詳細

- インタビューで得られた、いじめ解決の詳細を、物語としてまとめた。

「ケースの流れ」発覚から解決まで

小・中・高それぞれ1事例ずつ解決事例をインタビューで聞き取りました。

### 3 いじめと自殺



平成25年度に、いじめが原因で自殺した児童生徒は…、**全国で9名**います。



#### いじめによる最悪の事態が自殺！

- この問題は解決しません。
- 過去には仕返しとしての他殺も生じています。
- いじめと自殺の関連性を調べ、予防対策に向けた情報発信をします。

### 4 ネット社会におけるいじめやトラブルの問題と取組

- 1. 問題：**「SNSのトラブル」や「ネットいじめ」の社会問題化と低年齢化。
- 2. 目的：**「インターネット・リテラシー」を身に付けることによって、スマホのトラブルに関する知識や安全な使用方法に関する情報モラルを高める。
- 3. 方法：**スマホの安全な使い方と、無料メール通話機能のあるコミュニティサイトの疑似体験アプリを通して、ケータイマナーを習得させる。
- 4. 内容：**インターネットリテラシー能力の実態把握とスマホによる疑似体験プログラムを導入した授業実践。リテラシーは「ILAS指標」を用いて把握。
- 5. 演習：**学校周辺エリアを想定した災害図上訓練時にスマホを活用することで、ポジティブな実生活場面で役立つ活用の仕方を体験させる。さらに、通学区域全体に拡大した訓練を、災害の規模や時間帯を変えて実施。

#### 汎用性のある疑似体験 予防プログラムシステムの構築

1. 学校現場で活用できる予防プログラムの作成
2. 先進実践校や情報モラル教育の研究者との知見の共有
3. 情報教育専門教員との連携

予防プログラムの作成

## 第IV章 実践研究の内容と成果です！

### 1 いじめ解決大作戦BIG：Bullying Imagination Game



“BIG”って何ですか？

いじめ・暴力予防教育を行うための教材です

どういう教材ですか？

いじめについて、加害者や被害者、傍観者の立場に立って問題を理解し、解決を考えるための教材です。具体的な方法や授業の様子も載っています。ご覧ください！

どうしてそういう教材を作ったのですか？

成果はあったのですか？

これまで心理的な教育やディベートなどの取組を行いました。が、「望ましくない意識」を高めてしまうという現象が共通して見られていました。そこで、自分の心の中の加害性や被害感、傍観者としての意識を自覚するような取組が有効ではないかと考えて作成しました。

成果はありました！被害者への理解が進んだり、いじめを正当化してしまう意識に効果がありました。ただ実践が少ないので確かとはいえません。今後も取り組んでいきたいと考えています。

